

一般社団法人日本解剖学会 2018年(平成30年)度第4回理事会議事録

日時：平成30年12月16日(日) 13:35~16:45

場所：A P 東京八重洲通り(12階Fルーム)

出席者：岡部繁男(理事長)、木山博資、寺田純雄、仲嶋一範、八木沼洋行(以上、常務理事)、牛木辰男、大塚愛二、小澤一史、小路武彦、城戸瑞穂、佐藤真、島田昌一、千田隆夫、篠田晃、中村桂一郎、西真弓、藤本豊土、藤山文乃、渡部剛(以上、理事)、松村譲児、渡辺雅彦(以上、監事)、阪上洋行、松崎利行(以上、常任幹事)、片桐淳、中村聡(以上、口腔保健協会)

欠席者：なし

I. 議事録署名人の選任

定款第39条の規定により、松村・渡辺両監事を選出した。

II. 会議記録の確認

以下の議事録(案)が確認された。

- (1) 2018年(平成30年)度第1回理事会(平成30年3月27日開催)議事録(案)
- (2) 2018年(平成30年)度定時社員総会(平成30年3月28日開催)議事録(案)
- (3) 2018年(平成30年)度第2回理事会(平成30年9月11-14日開催)議事録(案)
- (4) 2018年(平成30年)度第3回理事会(平成30年9月27-28日開催)議事録(案)

III. 報告事項

1. 庶務報告

(1) 教授就任による代議員の承認について

資料に基づき、教授就任に伴う以下の8名の代議員申請者について、常務理事会で承認されたことが報告された。

大野伸彦先生(自治医科大学医学部・解剖学講座・組織学部門・教授 2018年4月1日就任)

船戸弘正先生(東邦大学医学部・解剖学講座微細形態学分野・教授 2018年4月1日就任)

池上浩司先生(広島大学・解剖学及び発生生物学(旧解剖学第一)・教授 2018年4月1日就任)

藤谷昌司先生(島根大学医学部・解剖学(神経科学)・教授 2018年4月1日就任)

隈部俊二先生(大阪歯科大学・口腔解剖学講座・教授 2018年4月1日就任)

金井克光先生(和歌山県立医科大学・第1解剖学教室 教授 2018年10月1日就任)

八代健太先生(京都府立医科大学・大学院医学研究科・生体機能形態科学部門・解剖学教室 2018年11月1日就任)

岩崎広英先生(群馬大学大学院医学系研究科・機能形態学分野・教授 2018年12月1日就任)

(2) 男女共同参画学協会連絡会報告

資料に基づき、8月24日(金)に開催された第16期 男女共同参画学協会連絡会 第3回運営委員会議事録(案)(徳田信子先生:男女共同参画推進委員会委員長 出席)の報告があり、特に次年度より解剖学会の分担金が10,000円から15,000円となることが説明された。さらに、12月10日(月)に開催された第17期 男女共同参画学協会連絡会 第1回運営委員会の議事内容が報告された(解剖学会からは委任状で対応)。

(3) 支部代議員会報告

資料に基づき、第106回関東支部代議員会議事録(平成30年10月20日(土)開催)、第78回中部支部学術集会 代議員会議事録(平成30年10月13日(土)開催)、第73回中国・四国支部代議員会議事録(平成30年10月20日(土)開催)、第74回九州支部学術集会 代議員会議事録(平成30年10月27日(土)開催)、第94回近畿支部代議員会議事録(平成30年11月17日(土)開催)について報告があった。関東支部長の小澤一史先生から、関東支部では、特に大学院生の支部会での発表について議論になり、次年度からは非会員であっても発表は認めるが、会員になってもらうようにはたらかける方針になったことが説明された。

(4) 「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」改訂版について

資料に基づき、「臨床医学の教育及び研究における死体解剖のガイドライン」改訂版が、平成30年4月に出されたことが報告された。

(5) 男女共同参画推進委員会企画ランチョンセミナーアンケートについて

資料に基づき、2018(平成30)年度総会・全国学術集会で実施した、男女共同参画推進委員会企画ランチョンセミナーアンケート集計結果について報告があった。

(6) 次期理事・監事選挙結果

資料に基づき、次期理事・監事選挙結果について、以下の報告があった。監事として得票数1位の渡辺 雅彦 先生は、北海道支部の理事に選出されたため、監事は次点の先生が繰り上がることが説明された。今回の選挙ではオンライン投票として実施した。次期選挙管理委員会・理事会への申し送り事項の主な点は以下の通りであった。①「誰が誰に投票したか」がデータで残ってしまうため、PCのデータは削除し、集計結果を紙ベースで保管することが望ましい。②票数同点の場合の票数同点の場合の規定について、年長者優先と細則第4条(5)に記載があるが、生年月日も同一の場合の規定がないので、学会会員歴の古い者を優先することを明記したほうがよい。③有効票の確認について名前・会員番号・メールアドレスのうち2つ以上が合致することとしたが、今回はほとんどの投票で3つとも合致した。④メールアドレス不明の有権者には投票要項を郵送した。⑤次期選挙管理委員会の体制は4名(1期目2名、2期目2名)程度が適切と思われる。⑥役員選出細則第8条については時限特別措置期間が終了しているが、今後も継続するかどうか、現執行部に対応を一任する。これらの申し送りについて、常務理事会の対応として、②については役員選出細則の改正をおこなう、⑥については、次期常務理事会で検討してもらうこととしたと説明された。また、理事から、被選挙権者として65歳未満となっているが、どの時点なのかとの質問があり、事務局からは社員総会の翌日の時点で判断しているが明確な記載がないとの回答で、今後明記することとした。

(7) その他
特になし。

2. 編集報告

(1) ASIについて

資料に基づき、ASIの販売部数に伴い、シュプリンガーから480,697円が振り込まれたことが報告された。また、ASIに掲載する論文でオープンアクセスを希望する場合の料金がUSD 3140に値上げされたこと、editorial boardメンバーで非会員には冊子体を配布していたが、ウェブ上でアクセスできるようにしたいとの申し出がシュプリンガーから編集委員長宛てにあり、承諾したことが報告された。また、理事からカラー掲載は無料化されたが、会員は知らないようなので周知したほうが良いとの意見が出され、対応することとした。

(2) その他
特になし。

3. 企画・渉外報告

(1) 2018(平成30)年度奨励賞について

資料に基づき、2018(平成30)年度奨励賞の選考過程と選考結果(12月15日選考委員会開催)についての説明と、4名の受賞者が報告された。選考委員長の渡部 剛 先生からは、審査の過程についての追加説明と委員会からの申し送り事項について以下の通り発言があった。①再申請の場合は、前回の申請内容との比較が必要なので、再申請であることを明記してもらった方がよい。②受賞者の学会への将来的な貢献をはかる意味で、解剖学分野に関する教育経験・実績も選考経過において参考とできないか。②についてはあくまでも提案であり、常務理事会で検討してほしいとの説明があった。

(2) 一級ならびに二級認定技術者審査結果について

資料に基づき、平成30年度一級ならびに二級認定技術者審査結果について、以下の報告があった。一級は1名の合格、二級は4名の合格であった。一級技術者試験について、今後公開予定の問題最終案が示され、意見があれば寄せてほしいとの依頼があった。

(3) 2019(平成31)年度総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づき、2019(平成31)年度総会・全国学術集会準備状況について、以下の報告があった。一般演題と学生セッションの演題数合計は561演題であり、シンポジウム・ワークショップは30企画である。常務理事会では、ポスター討論が第2日目のみに設定されているが、時間が短すぎるのではないかと意見が出され、次回プログラム委員会で検討してもらうこととした旨説明があった。

(4) 2020(平成32)年度総会・全国学術集会準備状況について

資料に基づき、2020(平成32)年度総会・全国学術集会準備状況について、会頭予定の篠田 晃 先生(山口大学大学院医学系研究科 神経解剖学講座 教授)から以下の説明があった。2020年3月25日(水)~27日(金)の日程で、ANAクラウンプラザホテル宇部で開催予定である。大会テーマは「世界を動かすカタチの時空芸術~アナドルなかれ、アナトミー~」である。

(5) 日本医学会・日本医学会連合報告

資料に基づき、日本医学会・日本医学会連合に関して、以下の報告があった。①日本医学会からの”dominant”

“recessive”の訳語の改訂に関する提案への解剖学会からの回答を送った。②2018年6月19日(火)に開催された日本医学会連合基礎部会連絡会議の議事録内容(岡部 繁男 理事長出席)。③日本医学会総会奨励賞に解剖学会から応募した近藤 誠 先生(大阪大学)について、「生理系・病理系部門」での受賞が決まった。④日本医学会連合の加盟学会連携フォーラムに、2019(平成31)年度総会・全国学術集会で実施する生理学会との連携シンポジウムを申請し、承認された。⑤平成30年11月6日(火)に開催された、第2回日本医学雑誌編集者会議(JAMJE)ならびに日本医学会分科会利益相反会議合同シンポジウムの次第(原田 英光 先生:倫理委員会/利益相反委員会委員長 出席)。⑥12月18日に平成30年度日本医学会分科会用語委員会の開催案内。⑦平成30年度 女性医師支援担当者連絡会の次第内容(徳田 信子 先生:男女共同参画推進委員会委員長 出席)。⑧第86回日本医学会定例評議員会の開催案内。また佐藤 真 先生から日本医学会総会における学会紹介パネルの原案につき説明があった。

(6) 生物科学学会連合報告

資料に基づき、生物科学学会連合に関して、以下の報告があった。①10月1日(月)に開催された生物科学学会連合第18回定例会議(寺田純雄常務理事 出席)の内容について。主な点としては、次期代表として小林 武彦 先生(日本遺伝学会)が選出された。②3月5日(月)に開催された生物科学学会連合第17回定例会議の議事録について。③10月1日(月)に開催された生科連公開シンポジウム「持続可能な社会を目指して生物科学は何ができるのか」～生物科学系学会のあり方を考える～(岡部 繁男 理事長 出席)について。④日本学術会議第24期生物科学分科会からの依頼「高等学校の生物教育における重要用語の選定について」に対する解剖学会解剖学用語委員会からの意見について。その他、平成31年度予算案・第31回国際生物学オリンピック共催承認など。

(7) 日本脳科学関連学会連合報告

資料に基づき、日本脳科学関連学会連合 第9回評議員会議事録(岡部 繁男 理事長、寺田純雄常務理事 出席)について以下の報告があった。任期満了に伴う役員選出がおこなわれ、連合代表として山脇 成人 先生(日本精神神経薬理学会)が選出された。

(8) 技術職員における現状と課題についてのアンケートについて

資料に基づき、技術職員における現状と課題についてのアンケートについて、以下の報告があった。12月12日現在の回答数が56校で、未提出校が41校である。提出期限を延長し、年内を締切として再度依頼メールを送り、結果を集計の上、2019(平成31)年度総会・全国学術集会で開催される関連3委員会(解剖体/教育・若手育成/認定解剖組織技術者資格審査、各委員会)合同会議で結果について検討予定の旨、説明があった。

(9) 日本生理学会2018-2020年度他学会連携委員会委員について

資料に基づき、日本生理学会2018-2020年度他学会連携委員会委員について、常務理事会から深澤 有吾 先生(福井大学医学部・組織細胞形態学/神経科学領域 教授)に依頼し、承諾を得たことが報告された。

(10) その他

特になし。

4. 会計報告

(1) 支部学術集会決算について

資料に基づき、第28回関東支部懇話会収支決算報告があった。他の支部の収支決算書は作成中である。

(2) 2018(平成30)年度総会・全国学術集会収支決算について

資料に基づき、2018(平成30)年度総会・全国学術集会収支決算報告があった。

(3) 2018(平成30)年度中間決算書について

資料に基づき、平成30年度中間決算書(平成30年1月1日～11月30日)について、以下の説明があった。収入の部では、受取会費が順調に入金している。事業収入として、会誌等頒布収入はASIの契約更新の結果、広告掲載収入はホームページのバナー広告が増えた結果、いずれも前年度に比べて増している。支出の部では、事業費として、全国学術集会支出が前年度よりも抑えられた。他は前年度と大きな変動はない。特別会計(特別事業積立金)では第123回全国学術集会余剰金1,470,066円が積立金に繰入された。

(4) 日本外科学会CST推進委員会報告

資料に基づき、8月31日(金)に開催された平成30年度第1回CST推進委員会議事録について以下の報告があった。①平成31年度文科省の取り組みとして、課題解決型高度医療人材養成プログラムにおいて2億円の概算要求をしている。これは、複数の大学が連携した大学院課程における取組を支援するものである。②CSTガイドライン改訂版が4月6日に日本外科学会のホームページに公表された。CSTに関して、解剖学会でも2019(平成31)年度総会・全国学術集会でシンポジウムを予定している。また、厚労省「実践的な手術手技向上研修事業」について、昨年度は大幅な増額となったが、

8都道府県、9大学の採用が見送られたことから、平成30年11月20日付で外科学会理事長と解剖学会理事長名で、羽生田俊参議院議員ほか衆議院・参議院の医系議員宛てに予算確保についての要望書を提出した。また、CST推進委員の八木沼 洋行 先生から、CSTについては解剖学会での前回のアンケートで、「実施していない」が半数程度の大学であったが、実施できない事情をはっきりと示して、解剖学教室からの問題提起としたいとの意見が述べられた。岡部 繁男理事長からは、CSTについて問題が出てきたら早めに情報を提供してほしいとの考えが述べられた。

- (5) その他
特になし。

IV. 審議事項

1. 名誉会員・永年会員の推薦について

資料に基づき、名誉会員の推薦について今年度は対象者がいないことが説明され、承認された。永年会員の推薦については25名の対象者について説明され、承認された。対象者については本人の意思確認をおこなうこととした。また、名誉会員へは今後副賞としてメダルを授与することが提案され、承認された。メダルの案については、学会のロゴも入れて奨励賞、功労賞とは異なる新たなデザインを検討していくこととした。なお次の名誉会員の推挙予定は、2020年度になるので、2019年度後半にメダル10個を作成することとした。

2. 申請による代議員について

資料に基づき、6名の申請による代議員申請について説明があり、理事による投票の結果、6名とも承認された。

3. 役員選出規程の一部改正について

資料に基づき、以下の役員選細則と委員会設置規程の改正案について審議し、承認された。

役員選細則 第4条 (5) 投票数が同数の者の中から当選者を決定する場には、年長の者を優先する。生年月日も同一の場合は、通算の会員歴が長い者を優先する。(下線部が改正案)

委員会設置規程 第2条 2 選挙管理委員会は委員4名をもって組織し、互選により内1人を委員長とする。(下線部が改正案)

4. 入会手続きのオンライン化について (庶務、事務局)

資料に基づき、入会手続きのオンライン化について説明があった。入会申請に際して代議員推薦制度を存続させるかについて、常務理事会では入会の理由等を確認する意味合いもあるので、存続させることとした旨説明があり、審議の結果承認された。推薦代議員がいない場合は、学会事務局を介して支部長や海外交流委員長に推薦してもらうのでとくに問題はないことが確認された。

5. 解剖学雑誌電子化について

資料に基づき、解剖学雑誌電子化について、業者に依頼して300dpiで電子化を試行した結果、問題ない品質であったことが説明され、審議の結果、OCR化せず300dpiで施行することとした。またPDF化後の取り扱いについては学会ホームページに掲載することとした。

6. 商業誌における転載許諾の取り扱いについて

資料に基づき、商業誌における転載許諾の取り扱いについて説明があった。審議の結果、学術著作権協会にて転載許諾権利委託業務が2019年1月より受付開始予定であるが、解剖学会では転載許諾申請は年間5件未満と少ないこと、また、そのほとんどが学術書への研究発表目的であり、無償で承認していることから、転載許諾をおこなうメリットは少なく、現状どおり学会で都度判断することとした。また、著作権に関する規程(案)について説明があり、継続して審議することとした。

7. 広告バナー掲載基準の一部改正について

資料に基づき、学会ホームページ広告バナー掲載基準の一部改正について説明があった。バナーからのリンクには必要に応じてクッションページを経由する設定にすることとし、広告基準の文言を適切に改訂することとした。

8. 2018(平成30)年度認定技術者功労賞、ならびに規約の一部改正について

資料に基づき、2018(平成30)年度認定技術者功労賞申請者2名について紹介され、審議の結果2名とも受賞に値すると判断された。また、規約については応募の締め切りを10月末に改正することが説明され、承認された。

9. 2022(平成34)年度総会・全国学術集会開催校について

資料に基づき、2022(平成34)年度総会・全国学術集会開催について、大阪大学から希望の届け出があったことが説明

され、承認された。会頭予定者：佐藤 真 先生（大阪大学医学系研究科・連合小児発達学研究科 解剖学講座（神経機能形態学）・教授）。

10. KAAとの国際交流について（理事長）

資料に基づき、Korean Association of Anatomists (KAA) との国際交流について、以下の説明と提案があった。8th APICA（2018年10月28日～31日、韓国・釜山）開催にあたり、8th APICAで発表する若手会員に旅費支援を実施した。今後の日本・韓国の交流として、2019年秋の韓国解剖学会、2020年3月の日本解剖学会総会に3～4名の若い解剖学者をお互いに送ること、また日本・韓国の解剖学者の間で、共同研究を推進できるように努力することが提案され、承認された。

11. 日本解剖学会若手研究者の会立ち上げについて

資料に基づき、日本解剖学会若手研究者の会（仮称）立ち上げについて、以下の説明があった。立ち上げにあたって、協力者を募り、有志10名により設立準備委員会が発足した。委員長は近藤 誠 先生（大阪大学 神経生物学）。2019（平成31）年度総会・全国学術集会以で開催されるランチョン討論会企画の内容、参加者募集等については、12月中に会員に知らせる予定である。審議の結果、若手研究者の会（仮称）立ち上げと、ランチョン討論企画への特別会計からの支出につき承認された。

12. 2019（平成31）年度事業計画案について

資料に基づき、2019（平成31）年度事業計画案について説明があった。ほぼ例年通りの計画案であるが、審議の結果、その他の事業として「若手研究者の育成・研究奨励」を加えることとした。

13. 2019（平成31）年度仮予算書案、ならびに事務委託契約について

資料に基づき、2019（平成31）年度仮予算書案について、以下の説明があった。一般会計収入の部では、受取会費は正会員の減少が続いていることから減少、会誌等頒布収入については、シュプリンガーとの契約が変わったので増加をそれぞれ見込んでいる。支出の部では、奨励賞・功労賞関係費は、今年はメダルの作成がないので減少、委員会運営費は活動が増すことから増加、会議費、旅費・交通費は、役員改選のため増加、雑費は名誉会員のメダル作成のため増加をそれぞれ見込んでいる。また、特別事業積立金支出の部では、若手研究者の会運営費を500,000円予定しているが、今後も続くので将来的な財源を検討する必要がある。また解剖学雑誌電子化に2,000,000円を予定している。以上、審議の結果、承認された。また、学会事務局から事務委託契約について説明があり、審議の結果、2019（平成31）年度も口腔保健協会に事務委託を契約することとした。

14. その他

次回（2019（平成31）年度第1回）の日程について

日時 2019（平成31）年1月26日（土）11：45～14：15

会場 AP東京八重洲通り（7階Qルーム）

※新旧合同理事会として開催